

議会全員研修 (岡山県・鳥取県)

参加議員
(宮崎、荒牧、安元、茂呂、三田、峯、宮本、田中、岩花、廣崎、高西)

出生率2.81の町

岡山県奈義町:10月29日(火) 三田 敏和

「出生率2.81の町」ってどんな町だろう？(平成30年速報2.41)

上毛町の出生率は、平成30年でなんと0.96です。その政策について伺うために岡山県奈義町を訪問しました。

昭和30年に3村合併で奈義町が誕生、面積は69.52km²、人口は令和元年5月現在5874人、1200m級の那岐山を抱える中山間地で、扇状に広がる日本原高原に陸上自衛隊日本原駐屯地(日本原演習場14.66km²)をもつ町です。平成14年に合併の是非を問う住民投票を行い「単独町政」を決定して「子育て応援宣言」を行い推進しています。

人口減少、少子高齢化に歯止めがかからない中、目標『今後も現在の人口を維持し、町の活力と産業の力を保つ』を目標に掲げて、定住促進のため3本の柱を立て推進する中で平成26年、出生率2.81を達成しています。

①若者住宅施策

6分譲地87区画を建設(82区画販売済み94%)

- ・分譲地紹介報奨制度(30万円)
- ・新築住宅普及促進事業補助金(50万円)
(町内新築20万円、地元業者施工20万円、県産材利用10万円)
- ・若者向け賃貸住宅(3LDK 11戸、地元産材を使用した木造2階建)
- ・雇用促進住宅の取得(3DK 60戸集合)

②就労の場の確保施策

- ・企業誘致:東山工業団地に19企業稼働

③独自の子育て応援施策(予算額1億2307万円で、3500万円は過疎対策事業債を活用)

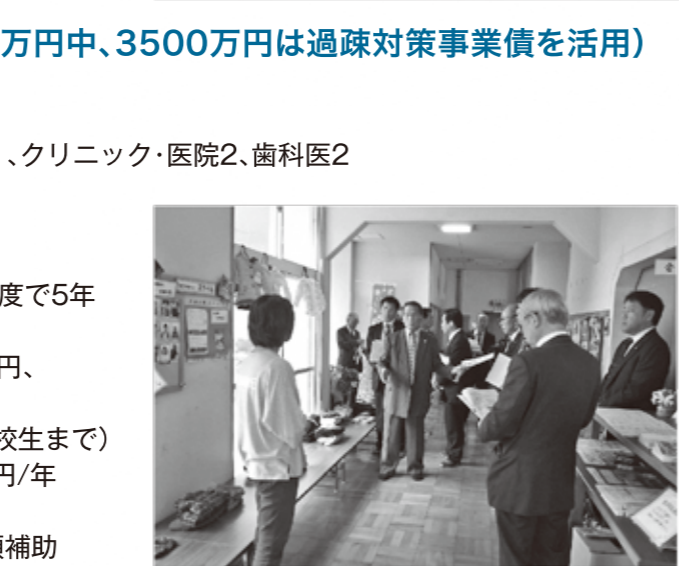
子育て施設

保育園1、幼稚園2、小学校1、中学校1、子育て支援施設1、クリニック・医院2、歯科医2

子育て支援策

- ・高等学校就学支援:9万円/年3年間支給
- ・不妊治療助成:県の助成を引いた額の1/2以内20万円限度で5年
- ・不育治療助成:30万円/年限度で5年
- ・出産祝金交付:第1子10万円、第2子15万円、第3子20万円、第4子30万円、第5子以降40万円
- ・乳幼児・児童生徒医療費助成:自己負担分を町が負担(高校生まで)
- ・やすらぎ福祉年金交付:義務教育課程のひとり親 5.4万円/年
- ・在宅育児支援手当:月1万円/人
- ・要望接種助成:おたふくかぜ、ロタウイルスワクチン全額補助
- ・子育てサポート:チャイルドホーム・集いの広場・一時預かりなど

視察して思う事は「住むところがあって安心」「子育ての負担が軽くなって安心」「子育ての悩み相談ができて安心」「町のみんなが子育てを応援してくれて安心」安心がとても大事で、一貫して子育て世代を町全体で応援していることのように。



三田 敏和 議員

平和事業の今後は

坪根町長
地域を一つにして世界に発信したい



平成19年8月6日に核兵器廃絶恒久平和の町とすることを宣言した。以降、上毛町として平和に関する取組、経費は、

永野開発交流課長 第8回平和首長会議国内加盟都市会議や日本非核宣言自治体協議会総会への出席、8月に役場ロビーにて原爆写真の展示、被爆樹木2世植樹の平和記念事業などに取組み、経費は約220万円程度である。

「今回の平和記念事業で爆心地広島・長崎以外の地域から世界恒久平和の願いを発信することは意義があり、現時点で反響や成果は、

永野課長 千羽鶴の作成を町民の方にお願ひし、多くの協力があった。成果としては世界恒久平和に向けた新たな拠点になったことを、町内外の方に示すことができたとと思う。

「一過性のものではなく、この事業をきっかけに、世界平和を発信することに大いに期待をしている。今後の展望は、

坪根町長 この地域が一つになるためには我々も努力をしなければならぬ。何と云っても、平和を指すことに議会の皆さんにも、一致団結してほしい。SDGs実施指針の五つのP※に広がるように、世界に発信していきたいと考えている。

※5つの「P」とは
1 People 人間

- 2 Prosperity 豊かさ
- 3 Planet 地球
- 4 Peace 平和
- 5 Partnership パートナーシップ

「私の提案ですが、中間点上毛から世界へ英語のピーススピーチ大会。音楽家、音楽家のいる上毛町大池公園たまり場から、平和への大合唱、ジャズの音色を発信する。平和の鐘を作り、広島への丘が長崎の丘を中心に鳴らす。若い画家もいる。絵や写真などで平和を世界へ発信することもできる。考えを伺いたい。」

永野課長 提案は、貴重な意見として担当課で受け止めたい。内容などの資料があれば、いただき参考にしたい。

「平和のかけ橋事業を開催した9月21日は国際平和デー(ピースデー)として町民に呼びかけ家族で平和を考える日にしてはどうか。」

永野課長 平和宣言を行ったことを町民の方全てに認識をしていただくことが大切で、提案を踏まえて今後検討を進める。

認知症の対応は

「認知症患者は確実に増えている。上毛町の実態は、

佐矢野長寿福祉課長 推計すると400名弱となる。平成30年度包

括支援センターの相談件数は、新規177件、継続51件の合計228件となっている。

「家庭で過ごす軽度な方など、上毛町の対応は、

佐矢野課長 認知症予防に努め、早期発見、早期受診につなげるのが一番大切。正しい理解のための啓発事業として認知症サポーター養成講座、もの忘れ相談会などを開催し、本人や家族の憩いづくり、居場所づくりを行っている。大川病院にサポーター医を委託し、社会福祉士、作業療法士に認知症初期対応の指導助言をお願いしている。

「上毛町の認知症サポーターの数は、

佐矢野課長 今年の10月末時点で967名。大人791名、子ども176名で、今年度末までに1000名を目標にしている。

「認知症サポーターの日々の活動、行政との連携、関わり方は、

佐矢野課長 普段の生活の中では地域の見守り活動、子どもたちには道で何か困っているお年寄りがいたら声をかけようというお願いしている。今後、脳の健康教室サポーターなどに活躍の場を広げたい。

「近郊市町にあるオレンジカフェ、認知症カフェを、今後検討

してはどうか。」

佐矢野課長 町として今後検討したい。

「認知症患者家族がどのように思っているか、聞き取り調査をしたことがあるか。」

佐矢野課長 実施していないが、地域包括支援センターでは相談を受けている。

「行方不明になった場合、靴、腕時計、よく持ち歩く物などに付けGPSで場所の検索ができる装置があるが普及は、

佐矢野課長 県内では10数自治体で導入しているが実際の登録者は少ないと聞いている。町として何が出来るか、何をしなければならぬか、どうしたら安心安全な町になるかを考えながら施策を展開していきたい。

